

NHKテキストを用いた学習

地域政策学部3年
柴田 啓希

第二言語に興味はあるだろうか。ドイツ語？フランス語？読み手によってこの質問の答えは違うだろう。しかしこの点については多くの人が共感すると思う。「教材が少ない」と。第一言語の英語や中国語、第二言語として人気のある韓国語は多くの教材がある。しかしその他の言語はそうではない。第二言語ということで教材が少ないのだ。そこで今回進めるのはNHKテキスト「まいにちロシア語」だ。ロシア語とあるがNHKテキストはドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、ハンガール語、ロシア語、ポルトガル語、アラビア語に対応したテキストがある。これら言語に興味がある読者はぜひ本文を読んでほしい。

まいにちロシア語はNHKラジオ第二放送で放送されているNHK語学番組のひとつである。まいにちロシア語には初級編と応用編がある。初級編は小話、クイズ、早口言葉など、さまざまな題材で初歩のロシア語を学べるように構成されている。応用編は現役ロシア人俳優の朗読を聴きながらロシア語の学習をより深く学べるようになっている。それに加えて応用編で取り扱う本文はロシアの劇場で親しまれている戯曲の一部である。例えばチェーホフの『桜の園』、ゴースキーの『どん底』である。また巻末にはロシアについて日本語で書かれた記事が掲載されている。例えば2024年4月号は2014年に冬季オリンピックが開催されたソチについての記事が掲載されている。ここで読者が疑問に思うことがあるだろう。それは初級編、応用編の具体的な難易度についてだ。愛知大学の先生曰はく初級はロシア語検定4級程度、応用編はロシア語検定3級程度の内容であるという。応用編で

もそこまで難しくないだろう。

本文ではロシア語を取り扱ったがドイツ語やフランス語もおそらく同程度の内容だろう。愛知大学には合計約130万冊の図書が所蔵されている。そこにはもちろん言語について取り扱った図書もある。これら図書の多くが音声対応していないだろう。しかしNHKテキストはアプリ（無料）をダウンロードすれば音声ありで学習できる。筆者はこれがNHKテキストを進める一番の理由である。

ライトノベル、映画、スポーツなどをきっかけとして第二言語について授業以外にも触れてみてはどうだろうか。



2024年4月号まいにちロシア語

出典：
<https://www.nhk-book.co.jp/detail/text-09147.html>



ロシア語でデレる隣のアーリャさん

出典：
<https://sneakerbunko.jp/product/roshidere/322011000027.html>